大浦町の疱瘡踊

【所　在　地】南さつま市大浦町（疱瘡踊保存会）
【種　　別】県指定無形民俗文化財
【指定年月日】昭和 37 年 10 月 24 日

疱瘡（天然痘）除けとして新暦２月 11 日，大浦町内の各地区ごとに女性たちにより踊られるもので，鹿児島県各地にも同種のものが分布している。この大浦町のものは踊り方に古風をとどめ，踊りの流れも整い，当地で盛んな伊勢講と結びついて，毎年７集落で行われてきており，伝承が確かである。
前半では,「馬方踊」風に伊勢参りのようすを旦那役と馬方役の掛け合いで演じて見せる。そのとき，白布の手綱を両手で持って踊る場面もある。後半の踊りは，疱瘡にかからないように,かかっても軽くてすむようにという切実な祈りの心がにじみ出た舞になっている。
晴着をつけて手にシベ（紙の幣，長さ 10cm ほど）を持った 20 ～ 30 人が，四列縦隊となって「安芸の御手洗」,「神はお伊勢」,「今年しゃ佳い年」,「ゴダイマチ（五代町）」などを踊るが，足の動作はほとんどなく，祈りや招き手など手の動きを中心にしたもので，静かな想いをこめた振りである。唄は師匠格の女性が歌う。
昭和 53（1978）年１月 31 日，記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財に国により選択された。